

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒108-8532
 住 所 東京都港区芝浦2丁目5番1号
 氏 名 あすか製薬株式会社 印
 代表取締役社長 山口 隆
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	あすか製薬株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市高津区下作延5丁目36番1号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	医薬品製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,693	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	広報部
		所在地	東京都港区芝浦2丁目5番1号
		電話番号	03-5484-8366
		FAX番号	03-5484-8351
		メールアドレス	webmaster@aska-pharma.co.jp
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成23年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号及び第3号のとおり
備考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 http://www.aska-pharma.co.jp/company/environment.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 3,810 t-CO ₂ (調) 3,416	(実) 3,615 t-CO ₂ (調) 3,219	(実) 3,355 t-CO ₂ (調) 2,991	(実) t-CO ₂ (調)	(実) 3,697 t-CO ₂ (調)
削減率		(実) 5.1 % (調) 5.8	(実) 11.9 % (調) 12.4	(実) % (調)	(実) 3.0 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	空調延床面積		単位	t-CO ₂ /千㎡	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	270.8	263.7	222.9		262.7
削減率		2.6 %	17.7 %	%	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	高効率チラーユニットへの更新やオールフレッシュ空調システムの廃熱回収、エコキュートの導入、高効率照明器具への更新、蒸気ロスの改善等により、最終年度目標削減率3%に対して、実排出量で5.1%削減、原単位で2.6%削減することができた。
第2年度	エアコンの更新、エコキュートの導入、高効率照明器具への更新、蒸気ロスの改善等により、最終年度目標削減率3%に対して、実排出量で11.9%削減、原単位で17.7%削減することができた。この結果は震災による節電対策（電力使用制限令の発動）が優先されたことによるものが大きく寄与した結果である。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

<p><全社目標> 「全社で年1%以上のエネルギー消費原単位の低減およびCO₂排出量の年1%以上の削減」を中期環境目標として挙げている。昨年度は、いわき工場が東日本大震災の被害を受け生産面で支障をきたしたため、原油換算で3,800klから3,655klと減少しているにもかかわらず、生産額の減少により原単位で0.211から0.263（対前年度；109.9%）と上昇した。しかし、CO₂排出量は、14,035 t-CO₂から12,950 t-CO₂と前年度比92.3%となり、前年度に比べて7.7%削減できた。</p>

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該当者等)	計 画	1. 蒸気配管の断熱工事による放熱損失防止対策の実施 2. 定期点検の実施 3. ヒートポンプの採用 4. 空気調和設備の新設・更新に当たっての室外機設置場所の選定 5. トップランナー変圧器の採用 6. 高効率照明器具の採用 7. 給湯設備のヒートポンプ化
	第1年度	上記計画に基づき、全ての項目について措置を講じた。 実施状況については、別紙参照
	第2年度	上記計画に基づき、措置を講じた。 実施状況については、別紙参照
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

別紙

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 蒸気配管の断熱工事による放熱損失防止対策の実施 2. 定期点検の実施 3. ヒートポンプの採用 4. 空調設備の新設・更新に当たっての室外機設置場所の選定 5. トップランナー変圧器の採用 6. 高効率照明器具の採用 7. 給湯設備のヒートポンプ化
第 1 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 蒸気配管の断熱工事による放熱損失防止対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・フランジ継手類は、パッキンからの漏れが多いため保温は未施工であったが、漏れが少ないパッキンを採用したことで断熱工事を行った。 ・スチームトラップ周りは、保守のため保温は未施工であったが、保守が容易な工夫をして断熱工事を実施した。 2. 定期点検の実施 <ul style="list-style-type: none"> 不具合箇所を早期発見し修理することで、エネルギーの浪費を防止した。 3. ヒートポンプの採用 <ul style="list-style-type: none"> 高効率のチラーユニット、エアコンに更新、 4. 空調設備の新設・更新に当たっての室外機設置場所の選定 <ul style="list-style-type: none"> 直射日光を避けて設置するのは非常に難しかったため、通風の良い場所を選定して実施した。 5. トップランナー変圧器の採用 <ul style="list-style-type: none"> 2台を更新して電力損失を削減した。 6. 高効率照明器具の採用 <ul style="list-style-type: none"> 従来のFLR40W2灯式蛍光灯器具を高効率反射板と1灯式Hf蛍光ランプを組み合わせたインバーター器具を採用し、約50%の消費電力を削減した。 7. 給湯設備のヒートポンプ化 <ul style="list-style-type: none"> 蒸気式給湯からエコキュートに更新し灯油から電気へエネルギー転換し効率的使用を図った。
第 2 年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 蒸気配管の断熱工事による放熱損失防止対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・不要配管撤去により放熱損失を防止した。 ・屋外保温ラッキングのシーリングと塗装により、雨水浸入による放熱損失を防止した。 2. 定期点検の実施 <ul style="list-style-type: none"> 不具合箇所を早期発見し修理することで、エネルギーの浪費を防止した。 3. ヒートポンプの採用 <ul style="list-style-type: none"> エアコンを更新する際は熱負荷を見直し、冷・暖房能力を低減させることによって更に大きな省エネ効果を得た。 4. 空調設備の新設・更新に当たっての室外機設置場所の選定 <ul style="list-style-type: none"> 直射日光を避けて設置するのは非常に難しかったため、通風の良い場所を選定して実施した。 5. トップランナー変圧器の採用 <ul style="list-style-type: none"> 今回は未実施となった。 6. 高効率照明器具の採用 <ul style="list-style-type: none"> ・従来のFLR40W2灯式蛍光灯器具を高効率反射板と1灯式Hf蛍光ランプを組み合わせたインバーター器具を採用し、約50%の消費電力を削減した。 ・上記器具に交換する際は、照度を見直し、設置台数を低減させることによって更に大きな省エネ効果を得た。 7. 給湯設備のヒートポンプ化 <ul style="list-style-type: none"> 蒸気式給湯からエコキュートに更新し灯油から電気へエネルギー転換し効率的使用を図った。

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	該当する事項なし
第1年度	該当する事項なし
第2年度	該当する事項なし
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップ推進協会への協力 ・産業廃棄物の削減及び、資源化対策 ・グリーン購入の推進
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップ推進協会へ協力し世界の子どもにワクチンを届ける活動を行った。 ・産業廃棄物の削減や資源を効率的に利用するための取り組みを積極的に進め、最終処分率（最終処分量／排出量）1.15%、再資源化率66.6%となった。 ・グリーン購入の推進については必要性を十分考え、できる限り数量を削減し、環境負荷低減に努めている事業者より優先的に購入した。
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・環境ニュースを従業員に対し発行して、廃棄物に関する情報提供と削減への協力を求めた。 ・社会貢献活動として、ポリエチレンフィルムとペットボトルの無償提供を行った。 ・産業廃棄物の削減や資源を効率的に利用するための取り組みを積極的に進め、焼却していた機密文書をトイレトーパーへ再資源化する取り組みを行った。
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	3,173	t-CO ₂
(調)	3,169	

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎事業所	高津区下作延5丁目36番1号	1651	医薬品原薬製造業	3,173 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--